



目の前の社会を問え!

現代の社会にはさまざまな問題が混在し、ひとつの観点から簡単に解決策を導くことはできません。

社会をより良くするという事は、その複雑な背景を十分に考慮する必要があります。

現代福祉学部では、それらの問題の背景を正確に読み解き、

何をどのように変えていけばいいのか、ということを実践的な取り組みを通して学んでいきます。

目の前の社会は今のままでいいのか。

“パラダイムシフト”は理想を探求する先にある。

社会課題

課題の根底にあるものは何なのか、背景を十分に把握した上で解決策を模索していきます。

ゲンプクでの学び

現代福祉学部(ゲンプク)では座学で理論を学ぶだけではありません。実践的な取り組みを通して自ら考え行動する中で、社会に必要とされる力を養います。

目指す社会

課題を解決していく先に何を描くのかも重要です。理想とする社会を見据えて、目の前の課題と向き合うことが求められています。

社会福祉

ソーシャルワーク

常識を疑え!
答えを「探す」思考から「つくる」思考へ

湯浅誠教授



社会課題

ソーシャルワークを形骸化させるな

本当の社会保障とは大勢の人のためにあるのではなく、すべての人のためにあるべきです。もちろんそれを実現させることは簡単なことではありませんが、困難に立ち向かい、まだ見ぬ新しい社会をつくるこそがソーシャルワークに求められています。

ゲンプクでの学び



湯浅ゼミ

イベントの全てを、自分たちで考え、実行する

私から課題は与えません。ゼミ生自身が、テーマを考え、企画、実行する。プロジェクトでまずくともありますが、何が自分たちに足りていないのかを考え、現場へ行き、課題と向き合い、試行錯誤しながら、前へと進めています。

身につく力

- 答えを探す思考ではなく答えをつくる思考
- 常識にとらわれず本質を見抜く力
- 周囲と合意形成して実現する力

- 自分が100%本気になるって、周りを動かすことが大事 — 村永 富海さん
- 良い方向に進むように考え続ける姿勢を持ちたい — 加藤 里菜さん
- 周りの声に耳を傾けることの大切さを実感 — 菊池 豪さん

資料から知識を得るだけではなく、現場へ足を運び、当事者目線での問題や社会背景などを知ることが大切です。



ソーシャル・インクルージョンの実現

ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)とは、誰もが社会から孤立したり排除されたりすることなく、それぞれが社会の一員として能力を発揮し、ともに助け合うという考え方。これは、国や自治体が何かに取り組んだからといって実現するものではありません。私たち一人ひとりが周囲の人に寄り添い、課題に取り組んでいくことが実現のカギとなります。

ソーシャルワーク実習

ソーシャルワーク実習

大学で学んだ相談援助の技術を実際の場面で理解し、実践することによって、ソーシャルワーカーとして必要な技術、知識、価値観を習得することを目的とした実習です。

精神保健ソーシャルワーク実習

精神科病院や地域のリハビリテーション施設において、退院支援や就労支援等に携わることで精神保健領域のソーシャルワーカーとして必要な技術、知識、価値観を習得することを目的とした実習です。

スクールソーシャルワーク実習

生徒が抱える問題について、学校だけではなく、家庭や地域の社会資源との繋がりの中で解決をしていく援助展開を学ぶため、学校、教育委員会や関連機関での実習を行います。

逆転の発想でマイナスをプラスへ——保井美樹教授

動きながら考えろ！

社会課題

どこに行っても同じ風景、同じ暮らし

これまでの地域開発では、狭い道を広く、古い建物を新しくし、企業や工場の誘致で雇用増を目指すことが常識でした。でも、それでは街にビルや車が増え、企業が撤退すれば人々が翻弄されるだけ。持続可能なまちづくりに必要なものを問い直さなければいけません。

保井ゼミ

地域の絆づくりと団地の新しい暮らし方

地域の新たなつながりを創造し、まちの未来の姿を共有して、具体化するエリアマネジメントがテーマです。現在、高齢化が進む団地で、みんなが集う場づくりを実践中。空き店舗でイベントを開催しながら、ここでの暮らし方を実験し、地域再生のあり方を構想しています。

課題をプラスに捉えてみる

- 人口減少
 - 定住者だけでなく交流者が増える仕掛けを考えてみよう
- 空き店舗の増加
 - 交流や起業の場づくりの可能性を考えてみよう
- 都心から遠い
 - 郊外ならではのライフスタイルを提案しよう

- 地域の人と一緒に楽しみながら取り組んでいくことがカギ
 - 大野 貴文さん
- お互いに信頼し、協力し合えば大きなことも動かせる
 - 山口 加奈さん

ゲンプクでの学び



何もなかった場所でしたが、椅子や家具、当日の飲食物などを地域の方からご提供いただきイベントが開催されました。

目指す社会



地域に根ざした新たな暮らし方の創造

地域で働き、子育てや家族・友人との時間を大事にした、ゆとりある暮らし方を実現するには、地域のなかの経済的循環や社会的な支え合いが必要です。その実現手法は、決して一つではありません。それぞれの地域で、使えないと思われていた、しかし、実は地域の宝になる資源を見つけて、新しい使い方を提案する。人とつながり、そういったチャレンジを増やしていくことが大切です。

コミュニティマネジメント実習

コミュニティスタディ実習

中央官庁、地方自治体、NGO、NPO、シンクタンク、社会的企業等で働くことを希望し、コミュニティマネジメントに関心をもつ学生を全国各地の自治体や地域づくりNPOに派遣し、さまざまな活動を通じて地域社会の捉え方を習得します。

全国 24 県 50 箇所 ※これまでの実績

●沖縄県読谷村 「伝統文化農業を学ぶ」

お祭りを通して伝統文化が継承されている様子や、また農法を学ぶため農業体験も行いました。



●福岡県久留米市 「商店街マップの作成」

久留米を訪れる観光客のためのマップを作成。実際に久留米の市街地を歩いて情報を集め、実際はどのような店舗があるのかを元の地図に書き込んでいくという作業を行いました。

臨床心理

常に思考を巡らせろ！

すべての物事には文脈がある——長山恵一教授



社会課題

多様化し複雑化する、社会と心

昨今、社会はますます多様化し、それに伴い心も多様で複雑になってきています。教科書に載っている対処療法だけで解決するには限界があります。個人の背景にある家庭環境、学校、職場、友人関係などを把握し、個々に適切な対処をすることが求められています。

ゲンプクでの学び



3～4人グループで、事前に登場人物や時代背景、自然描写などの情報整理を行い、発見した心理学の要素をプレゼンします。

長山ゼミ

時代に対応して心理学を展開

日常を読み解くための入口として、現代のアニメを題材にし、どのような心理学的な意味が表現されているのかを分析しています。プレゼンとディスカッションをセットにしているため、一人の分析では気づかなかった心理学の要素を複数の視点から発見できます。

身につく力

- 多角的な視点
- 微細な変化を見落とさない洞察力
- さまざまな事態を類推した上での判断力

- 言葉の背景にある気持ちを考えられるようになった
 - 早坂 舞さん
- プレゼンを通して多くの気づきが得られる
 - 平岡 純太さん

目指す社会



知識と応用力を兼ね備えた人材の活躍

現実ではたとえどんなに知識をもっていたとしても理解がたいこともしばしば起こります。そのときに何を感じ、どう行動できるかが重要になるでしょう。自分だけの知識や経験の範囲にとどまっていたはいけません。他者とともに学ぶことで得られる多角的な視点や、状況判断能力、柔軟な対応力は、心理学関連においてはもちろん、他の分野においても幅広く生かしていくことができるのです。

臨床心理実習・実験

臨床心理実習

臨床心理学を中心とした心理学関連科目について、その理解を深めることを目的とした実習です。社会的活動に関わるボランティアと呼ばれる問題を抱える児童によりそい、サポートを行います。

●小学校でADHDの児童を支援 常に落ち着きがなかったり、教室を飛び出したり、大声を上げてしまうなどADHD(注意欠陥多動性障害)と呼ばれる問題を抱える児童によりそい、サポートを行います。

心理学基礎実験

心理学研究の基本である「実験法」を中心に、客観的データから人の心のメカニズムを捉える手法を学びます。様々なテーマから実験を行い、データを収集、解析していきます。

心理検査法

心理検査法の基礎理論を学ぶとともに、発達検査、性格検査、うつに関する検査など、代表的な検査法について正しい実施方法や検査結果の解釈について学びます。